

## 健康 WG における論点（案）

### 【目標】

- ・女性も男性も各人が互いの身体的特性を十分に理解しあい、相手に対する思いやりをもって生活していくことは、男女共同参画社会形成の前提といえる。
- ・このためには、心身及び健康についての正確な知識・情報を入手し、健康を享受できるようにしていく必要がある。
- ・男女の性差に応じた健康支援を行うとともに、とりわけ女性は妊娠・出産する可能性もあることから、女性の生涯を通じた健康支援の総合的な対策の推進を図る。

### ① ライフコースを念頭に置いた健康支援

#### 【必要性】

- ・男女が各年代での健康状態に応じて、適切な健康の保持増進を行える体制整備が必要。
- ・とりわけ女性は、妊娠や出産をする可能性もあり、ライフサイクルを通じて男性と異なる健康上の問題に直面することに留意した健康支援を実施することが必要。

#### 【取組例】

- ・男女が健康状態に応じて適切に自己管理を行うことができるようにするための健康教育・相談体制の充実
- ・女性の生涯を通じた健康づくりへの普及啓発の充実  
(高齢出産に一定の危険が伴うことや、20歳未満の人口妊娠中絶件数が増加していることなど妊娠・出産期、育児期、更年期に関する健康情報(がん検診、性感染症対策、喫煙対策等)の提供、健康支援、健康教育)
- ・適切な性教育の推進
- ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツについての検討

### ② 性差医療の更なる進展

#### 【必要性】

- ・性差医療はまだ緒についたところであり、とりわけ女性に対する医療のサポート体制は十分とはいえない状況。このため、男女の特性に応じた適切な診断や治療法、予防措置を確立していくことが必要。
- ・性差ガイドラインが作成されている分野は、循環器分野のみ。

#### 【取組例】

- ・男女の精神的(心理的)身体的特性と踏まえた調査・研究の充実
- ・総合医の充実など専門的知見を有する医師の人材育成

- ・男性の生活習慣病の予防
- ・女性外来の充実
- ・女性特有のがん検診や、メンタル支援等の推進
- ・国民、医療関係者に対する知識の普及（ガイドラインの作成等）
- ・性差医療に関する拠点病院の指定（都道府県単位）

### ③ 安心・安全な出産等の環境整備の充実

#### 【必要性】

- ・妊娠・出産期は、女性の健康支援にとって大きな節目であり、安心して安全に子どもを産み育てる環境支援が必要。
- ・産科医、小児科医などの医師不足。

#### 【取組例】

- ・周産期医療や救急医療体制の充実
- ・助産師の技能の活用の促進
- ・医師のワーク・ライフ・バランスの確保
- ・不妊専門相談サービスの充実

### ④ 健康をおびやかす問題についての対策の推進

#### 【必要性】

- ・健康に甚大な影響を及ぼす HIV／エイズは、平成 19 年度新規 HIV 感染者数が過去最高。
- ・薬物事犯の検挙人数は、平成 19 年で前年と比較して増加。
- ・喫煙率は、20 歳代女性は平成 4 年と比較して 19 年ではほぼ倍増。

#### 【取組例】

- ・HIV／エイズを含む性感染症に関する情報やデータの収集
- ・HIV や薬物等に関する予防教育・啓発
- ・喫煙に関する正確な情報提供

### ■各 WG 共通論点

#### ○風土の改革・気運の醸成、あらゆる年代層への広報・意識啓発と実践的取組み

- ・NPO などを活用した健康づくりへの普及啓発

#### ○国と地方の推進体制の整備充実・地方公共団体、企業、団体、NPO、地縁団体、男女共同参画センター等との連携強化

- ・性差医療に関する拠点病院の都道府県ごとの整備及び、連携体制の構築。